

インフルエンザかなと 思ったら — 現場医師からの助言 —

西条市医師会・有志

新型コロナウイルスエンザが全国で広がりをを見せていますが、現時点（9月下旬）での西条市は、まだ本格的な流行にはなっていません。しかし、流行はここにもいずれやってくるものとして心構えは必要です。ご心配でしょうが、新型

とは言えないのです。理由はインフルエンザの診断が難しいためです。症状がそろっていないことや、インフルエンザの検査も早すぎると検出率が低いいため、確かな診断をしづらいのです。

インフルエンザ迅速検査

とはいえ従来のインフルエンザと対応はそれ程変わりませんので、冷静に対応し乗り切りましょう。

ここでは、日頃インフルエンザの診療に当たっている現場医師たちが診療を通じて感じ、市民の皆さんにぜひ知っていただきたいと思っている事柄に絞ってご紹介します。

できるが早く受診を

「かかったと思ったらできるだけ早く受診を」という文章を時々見ます。実は「早すぎる」受診は、患者さん・医師双方にとって必ずしも最良

受診のタイミングは？

これらのことを踏まえて、受診のタイミングを考えてみましょう。

熱が開始しても、次項に書きます心配な症状やリスクがなければ、少なくとも半日程度、できれば1日程度、ご自宅の様子を見ていただき、治るような傾向がなければ受診していただくのが適当と思えます。

ご自宅では十分な安静、水分補給、栄養補給とともに、未成年者の場合は特に観察が大事です。心配な症状やリスクがなければ、必ずしも時間外救急への受診は必要ではなく、日中にかかりつけ医を受診していただく方が充実した診療を受けられるでしょう。

早く受診してほしい人

なるべく早めに受診していただきたい人は、次のような方たちです。

●心配な症状がある場合

息切れ、呼吸困難、胸の痛みが続く。嘔吐や下痢が続く。小児ではこれらに加えて、呼吸が速い、顔色が悪い、反

応が鈍い、落ち着きがない、意味不明の言動がある、けいれんなど。

●重症化のリスクが高い病気や状態の人

慢性の呼吸器病（ぜんそく含む）、慢性の心臓病、糖尿病など代謝の病気、腎臓病（特に透析患者）、ステロイド・免疫抑制剤の使用や癌の化学療法・放射線治療などで免疫の低下している人、妊婦

検査は医師の判断で

学校、保育施設、会社などで「インフルエンザの検査をしてもらってきてください」と指示されて受診される方が少なくありません。

正直なところ診療する側にとっては、ちよつと困ってしまう指示です。

インフルエンザ迅速検査はインフルエンザを疑う症状のある患者さんに対して適切なタイミングで行うものです。また、必須の検査というわけでもありません。

医師が診察し検査の必要性が少ないと判断した場合は、迅速検査を行わない場合もありますので、どうかご容赦い

ただきたいと思えます。実はこの検査に用いるキットが不足しているという事情もあります。

自宅療養の期間は？

病状を悪化させないため、またインフルエンザを広めないために、自宅療養はとても大事です。

通常のインフルエンザでは自宅療養が必要な期間は、「熱が下がってから2日目まで」となっていますが、新型インフルエンザについて、厚労省は「症状が始まった日の翌日から7日目まで」でできるだけ外出しないよう勧めています。

なお、登校・登園や勤務開始のための「完治証明書」は原則として必要ありません。

インフルエンザ
感染予防のため、
次ページの記事も
ご覧ください。

